

# 浜岡前面海域・豊かな海プロジェクト

藻場と磯根資源の回復を目指して

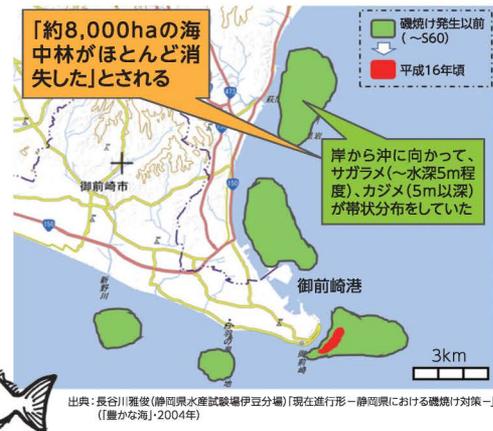


## 経緯

かつて静岡県牧之原市から御前崎市に至る榛南地方の沿岸では、カジメ、サガラメを代表とする豊かな藻場があり、その規模は約8,000haと、一続きのものとしては国内最大とされていた。しかし1985年頃から藻場は衰退・消失し、その後自然回復はみられず、これに伴い沿岸のアワビ等採貝藻漁業は低迷するなどの磯焼けが長期化している(環境庁2000、長谷川ら2003)。



この榛南地方での磯焼けの原因については明らかではないが、藻食性魚類のアイゴによる高い食圧が磯焼けの持続要因になっていることが指摘されている(増田ら2000、堀内・中山2000)。



そこで、当プロジェクトチームでは、漁業関係者協力のもと、当該海域にカジメを移植し、磯根資源の代表であるアワビを放流することで、藻場と磯根資源の回復を目指している。

## 活動内容



## 活動結果

カジメを網籠で保護し、種を放出するマザーゾーンの設定をはかることで、強い波浪やアイゴ等の高い食圧に対しても耐えられるカジメ藻場が回復しはじめている。近年では、イセエビなど有用な磯根資源も観察され、かつての【豊かな海】を感じさせる多くの生物が戻りつつある。

今後も様々な技術を用いて、藻場回復を軸とした豊かな海を目指して活動してゆく。

